

イスラエルに神の力の証拠が現れている 「2009年イスラエル連合聖会」驚くべき証し続出



9月6-7日、エルサレムICC(国際コンベンションセンター)にて、クリスタルフォーラムが主催しイ・ジェロク牧師を講師に招いて開かれた「イスラエル連合聖会」の後も、いやしと答えの証しが絶え間なく受け付けられている。

数年間続いた日照りにより水不足だったイスラエルに、イ牧師がイエス・キリストの御名によって祈ったら大雨が降ったという。ダニエル・ローゼン牧師(クリスタルフォーラム)は「聖会の

翌日の8日、ニュースでイスラエルの北部と中部に雨が降っていると聞いた。イスラエルでは9月に雨が降ったことがない。聖会が終わって1週間ほど経ったところ、エルサレムからテルアビブに向かう途中、突然大雨が降るのを目撃した。イ・ジェロク先生が祈ってくださったとおりで」と伝えてきた。カン・ハナ宣教師(イスラエル在住)は次のように知らせてきた。「イスラエルの新年初日にあたる9月19日、全く雨が降る時ではないのに、祈りが

聞かれてエルサレムに3回雨が降るのを見た。いやされた証しは今でも続いている。ナザレのある聖徒は、聖会の時、祈りを受けてメガネをはずしたが、とてもよく見えてすぐにメガネをごみ箱に捨てた。聞くことも話すこともできなかった子どもが、祈りを受けた後には話し始めた。聖会を通して教会もリバイバルして、祝福されている。」

また、世界各地からも証しの手紙が届いている。イギリスでエイズのために杖なしではよく

歩けなかったフローランスは、聖会に参加した後、出国する時には杖なしで歩いて、うれしくて踊るほどだったという。フィリピンから来たケーブル放送社長のサマダ・バラは骨粗しょう症がいやされた。ベルギーではよく歩けなかったトニーが歩くようになった。オランダのA.E.G.Aヨーロッパ支部の総会長バン・フルン牧師は、テレビで聖会を視聴しながら強い聖霊の臨在を感じ、心臓疾患も祈りを受けた後によくなったと感謝した。ケニア

のナイロビでは、いやされた人たちがナイロビ万民教会を訪ねて証しをした。東京の清水知恵勸士は長い間の手足の指の痛みが完全に消えた。レバノンのアナン・カスターニアン牧師は、メッセージが非常に明快で理解しやすく、多くの人が悔い改めて問題が解決されていたと驚いた。この他にもロシア、インド、アメリカ、コンゴ民主共和国、ネパール、カザフスタンなど、世界各地から証しが続々と受け付けられている。

万民中央教会・創立27周年記念礼拝および祝賀行事

10月11日、本聖殿で創立27周年記念礼拝が行われた。堂会長イ・ジェロク牧師は主日大礼拝1部(午前10時)、2部(11時30分)の時、「摂理」(アモス3:7)というメッセージを伝え、27年間変わらない愛で導かれた神の恵みとこれまで結んだ実を紹介した。

午後3時、夕方礼拝の時には「神の力」(詩篇37:6)というメッセージの後、「天国」をテ

マに祝賀行事があった。

シン・ドンチョ、イ・スジン牧師の司会で進められた祝賀公演は、将来私たちが天国に入った時に神が開かれる宴会を、勇壮で美しく演出、すべての聖徒がその日の喜びと幸せを感じて天国の望みが増し加えられた。

前夜行事は10月9日、9時40分、野外駐車場で「マンミンの世界宣教の働き」をテーマに、

最先端映像システム、パンドラ装備と6台のマルチプロジェクター、カラーレーザービームを使って、聖殿の壁面をスクリーンに聖潔の福音と炎のような神の力あるわざを表現した。金曜徹夜礼拝2部では、神が万民中央教会を導いてこられた歴史を含めたドキュメンタリー「私たちのあかし」を上映した。

海外宣教の主役GCN、開局4周年を迎える



世界キリスト教放送ネットワーク、GCNの開局4周年の祝賀行事が10月9日、金曜徹

夜礼拝2部の時に本聖殿であった。ハン・ドンシン、チョ・スンヒ執事の司会で進められたこの行事は、世界キリスト教放送人協会(NRB)フランク・ライト会長をはじめ世界のキリスト教メディアのリーダー

たちのビデオ祝賀メッセージ、芸能委員会の華麗な公演が繰り広げられた。

摂理

「まことに、神である主は、そのはかりごとを、ご自分のしもべ、預言者たちに示さないでは、何事もなさない。」(アモス3:7)

「摂理」とは、宇宙と歴史に対する神の永遠の計画・配慮のことで、これにより神は被造物を秩序と恵みのうちに導いておられます。全知全能で万物をつかさどる神が、計画したとおりにすべてを正確に成し遂げていかれることを意味します。

世の人は何か予期しなかったことが起こると、「偶然」という言葉を使いますが、主にあつて偶然はありません。すべてが神の公義と愛に基づいた霊の世界の法則に従って正確に動いています。神の摂理にあつて一寸の誤差もありません。神がこの世を造られたのも、イエス・キリストを通した救いの道を備えられたのも、また、この終わりの時に助け主聖霊を遣わして驚くべき救いのみわざを成し遂げていかれるのも、すべてが神の摂理です。それでは、神がこの教会を用いて成し遂げられようとする摂理とは何でしょうか？

第一に、多くの人々に聖潔の福音を伝えることです。

主イエス様は「しかし、人の子が来たとき、はたして地上に信仰が見られるでしょうか。」(ルカ18:8)と言われました。〈アモス8:11〉には「パンのききんではない。水に渴くでもない。実に、主のことばを聞くことのみである。」とあります。その時がまさに今です。

数多くの教会があつて、みことばが洪水のように氾濫していますが、神のみことばのまことの意味を伝えている所は見つけにくいのです。聖書に現れた不思議なみわざとしるしは消えて、文字的で知識的なみことばだけが残りました。

ですから、この時に切に必要なのが聖潔の福音です。これは神の御心と御旨を伝えるみことばです。天国を望んで悪はどんなでも避けて聖められ、神のまことの子とされる道を提示してくれます。その上、たましいに幸いを得ているように、すべての点でも幸いを得、また健康である祝福を頂いて生きる秘訣を教えてください。聖書に記されている不思議としるし、神の力を体験させるこの聖潔の福音が今日、私たちに必要なのです。



堂会長イジェロク牧師

全世界で聖潔の福音を聞いている数多くの人々が、変化といのちのみわざを体験しています。知識的で肉の信仰が霊的なまことの信仰に変わったと証しをしています。神は、変化といのちを生む聖潔の福音が私たちの教会を通して全世界に伝えられるように、摂理のうちに計画されました。

第二、驚くべき力を施して、信じる者の数を加えてくださることです。

神の驚くべき力が現れると、多くの人々が生ける神のみわざを見て聞いて体験することができ、まことの信仰を持ちます。もちろん、見なくて信じられるならば、まことに幸いです(ヨハネ20:29)。

ところが、実際に難しい問題にぶつかれば、すぐ信仰は消えてしまいます。ただ聞いて頭で知っているだけの知識的な信仰だからです。イエス様が「あなたがたは、しるしと不思議を見ないかぎり、決して信じない。」(ヨハネ4:48)と言われたのもこのためです。〈マルコ16:20〉にも「そこで、彼らは出て行って、至る所で福音を宣べ伝えた。主は彼らとともに働き、みことばに伴うしるしをもって、みことばを確かなものとされた。」とあります。

神のみことばがまことだと確かにするために、伴うしるしが現れなければなりません。その時に、聞く人がそのみことばがまことであると信じて、みことばどおり生きられます。それで、神はまことの子どもを得ようと、本教会を用いて数多くの力あるわざを施しておられるのです。

人の思いと知識ではどうも理解できないことが数え切れなく現れました。

講壇でイエス・キリストの御名によって祈るだけでも、時間と空間を超えて世界各地で数多くの人がいやされ、天気と気候まで調節されました。さまざまな虹と霊の空間から出てきたトンボなど、霊の世界を手で触ったようにされました。これは、罪と悪に満ちている終わりの時に、数多くの魂を救うための神の摂理です。

第三、世の終わりの日にこの教会に向けられた御旨を成し遂げることです。

神は世界の始まる前から人間耕作を計画して、今まで進めてこられました。それでは、人間耕作の締めくくりをどのように摂理のうちに計画されたのでしょうか？

人間耕作はまことの子どもを得ようとする目的で計画された、一つの作品のようなものです。神はこのよう人間耕作を見事に締めくくる道具を選ばれました。すなわち、罪を血流すまで戦って捨て、神を第一に愛して、ただ「アーメン、そのとおりです」と聞き従う教会です。また、聖書に記されている不思議としるしと力がそのまま現れていて、火のように絶えず祈って神の国を実現しようとしている教会です。聖潔の福音で世界宣教を行なって、終わりの時に大聖殿を建築して、神の栄光を高める教会です。

〈アモス3:7〉に「まことに、神である主は、そのはかりごとを、ご自分のしもべ、預言者たちに示さないでは、何事もなさない。」とあるように、神はこれから果たすべき事についてのビジョンをはっきり示してくださいました。ですから、神の栄光のために、主が血を注ぎ出して買い取られた魂の救いのために最善を尽くされますように、主の御名によって祈ります。

これは10月11日、教会創立27周年記念主日大礼拝のメッセージの要約です。

さらに詳しくご覧になりたい方は万民中央教会のホームページ(<http://www.manmin.or.kr/japanese/>)「いのちのみことば」をクリックしてください。

日本語の教会新聞

月二回発行に

先月、韓国語版の教会新聞『万民中央ニュース』が400号を迎えた。

『万民中央ニュース』は1987年5月17日、教会内の情報月刊紙として創刊、1989年、正式に定期刊行物として登録、2年間ほど月一回の発行であった。その後教勢が爆発的に広がったので、1991年から隔週発行になった。

『万民中央ニュース』は教会創立12周年を迎えた1994年10月9日付で8面の100号特集号を発行、本格的な教会機関紙となった。創刊当時、発行部数が毎月4000部程度だったが、現在は100万部以上になり、韓国の万民中央教会の情報紙を超えて、海外の支教会の聖徒のための世界的な宣教新聞に成長した。また、情報化時代に歩調を合わせて、インターネット新聞と、日本語、英語、中国語、スペイン語、ロシア語、タミル語、フランス語、インドネシア語、ポルトガル語など13か国語の海外版を発行、海外宣教の一翼を担っている。

『万民中央ニュース』は400号を迎えて変身、力強く第一歩を踏み出す。「韓国の万民中央教会から世界の万民中央教会へと飛躍する」教会規模に合わせた変化である。これに合わせて日本語版も名前が『万民ニュース』となった。また、発行が月一回から二回に増えた。

これは爆発的な聖徒の増加により、もっと新聞を送ってほしいという現場の要請のためと、さらに活発な宣教に必要なことからである。



400号新聞



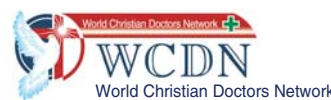
Manmin Central Church

Tel: 82-2-818-7042, 7063
Fax: 82-2-818-7048
www.manmin.org
e-mail: ksy7042@hotmail.com



MANMIN TV

Tel: 82-2-824-7107
Fax: 82-2-813-7107
www.manmintv.org
e-mail: info@manmintv.org



World Christian Doctors Network

Tel: 82-2-818-7039
Fax: 82-2-830-5239
www.wcdn.org
e-mail: wcdnkorea@gmail.com

万民ニュース

発行人: イジェロク
編集者: ビン・グンソン
www.manmin.org/Japanese
編集発行: 万民中央教会
〒152-848 韓国ソウル市九老区九老3洞 235-3
TEL: 82-2-818-7042 FAX: 82-2-818-7048

信仰を成長させるマンミンの図書

〈十字架のことば〉

16か国語で出版された信仰の必読書



キリスト教についての疑問に明快な解答を提示し、まことの信仰を持つための必読書である。「善悪の知識の木を置かれた理由」「イエス・キリストがなぜ私たちの救い主であるのか」など、救いの道について明快に答えてくれる。神が善悪の知識の木を置かれた理由を理解するだけで、人間耕作の摂理について多くの疑問が解けて、神を熱く愛さざるをえなくなる。さらに隠された奥義としての救いの摂理を悟れば、神の愛と知恵に感嘆するほかない。

〈信仰の量り〉

信仰の段階別ガイドブック

今日、信仰生活をしているとはいっても、いざというとき救いの確信がなく、どういふ信仰を持てば救われるのかさえ知らない人が多い。この本は神のみことばを



基にして、信仰の量り(ローマ12:3)とそれに応じて入る天国を五段階に分けて説明している。これで自分の信仰が点検できる。

天国の奥義と地獄の惨状

〈天国〉

(上)透き通った碧玉のように美しいところ
(下)神さまの栄光が満ちているところ

〈地獄〉

神は聖書を通して、天国と地獄が実存していて、死後にさばきを受けることを私たちが悟るようにされた。しかし、漠然と死後の世界があることを信じているとしても、詳しく知らなくて信仰生活が正しくできず、天国に行く確信のない場合が多い。

『天国』は、天国の美しさと生活、信仰の量りに応じて入る天国の各場所と報いについて詳しく教えてくれる。適当に信仰生活をしてかろうじて救われた人と、いのちを尽くして全家に忠実であった人が、天国で同じ待遇を受けたら、それは神の公義に合わない。私たちがこの地上でどれほど神の心に似せられて、神の国のために忠実であったかによって、天国の場所と栄光が変わるのである。また、『地獄』は、地獄の残酷な実情を赤裸々に伝えている。

イ・ジェロク牧師の初めての証し手記

死の上がり框で味わう永世

万民中央教会の堂会長イ・ジェロク牧師の証し手記『死の上がり框で味わう永世』は英語、日本語、中国語(簡体字、繁体字)、スペイン語、ロシア語など15か国語で出版された定番である。

生ける神に出会う前の7年間の病苦で「死ぬことが親孝行」と言われるほど病氣と貧困の中に生きていた彼だったが、神の恵みですべての病氣がいやされた。その後、五大洋六大陸を渡って聖潔の福音を伝え、神の力を現すもべになった。神は、彼が火のような訓練を通して器を備え、数え切れない祈りと断食を積んだ後に、神の力を授けられた。そして、世界宣教のビジョンを与えて、イエス・キリストの御名によって新しく生まれた霊的な人生を送るよう祝福された。

イ牧師が神に出会い、神の力を現す牧会者になるまでの過程が生き生きと記されたこの本は、多くの魂を救う伝道書として読まれている。この本を読んで、人生に絶望して自殺しようとしていた人が立ち直った、収監中に主を受け入れて牧会者になった、熱い聖霊体験をして公害病、うつ病等、さまざまな病氣がいやされて健康になったなど、多くの証しがある。



ヨハネの福音書講解
〈御足の跡〉



神の摂理のうちに隠された奥義、イエス・キリスト。十字架だけが人類の救いの道なので、あらゆる苦しみを耐え忍ばれた主イエスの犠牲と献身を悟れば、おのずと十字架の前にひざまづくようになる。誕生から苦難、復活、昇天に至るまで、主イエスの御足の跡には意味のないものがない。

この本はイ・ジェロク牧師の「ヨハネの福音書講解」説教を整理したものである。永遠の時間を遡り、世界の始まる前

の奥義と神の御姿であられる御子イエス、私たちが救うための愛の足跡が記されている。

〈目ざめよ、イスラエル〉

終わりの時に隠された神の愛と奥義

イスラエルはまことに長い年月、世界各地に散らされ、迫害と苦難にあいながらも、自分たちの宗教と文化、言語を守って発展させてきた。そして、ついにイスラエル共和国が誕生、約1900年ぶりに国を再建する奇跡が起きた。このようなイスラエルの独立は終わりの時のしるしであり、聖書に記された預言の成就である。ユダヤ民族はなぜメシアを長い間待ち望んでいるのか、という疑問を解いてくれるこの本には、神の選民イスラエルを目ざめさせて救おうとする、神の大いなる愛が込められている。

〈驚くべき奇跡〉

想像をはるかに超える神の力



主イエスの行なわれたさまざまな不思議とし。それは私たちが愛されるがゆえに現された。私たちがその愛の中で救い主を信じて救われるためである。使徒パウロ

の祈りによってさまざまな病氣がいやされ、生まれつき歩けない人が立って歩き、死んだ者が生き返り、パウロの身に着けている手ぬぐいや前掛けをはずして病人に当てると、その病氣は去り、悪霊は出て行く奇跡が起こった。現在でも、神が共におられる人にこの奇跡は同じように現れる(ヨハネ14:12)。

20か国、70人の驚くべき興味深い話を通して、まことの信仰を持ちにくいこの時代に、生ける神の愛と感動を与えている。

〈霊・たましい・からだ〉

自分探しの不思議な旅



人の根本を解き明かし、自分を発見させてくれる本。人の構成要素である霊とたましいとからだについて霊的な理解ができる。自分を見る目が開かれて、人生に対する洞察力を得させる。

自分が作った自分とはどんな姿なのか発見することによって、聖められて神の願われる御霊の人に換えられる道と、約束されたすべての祝福が受けられる近道を案内する。

今年7月初めに発刊されたこの本は、韓国の最大書店、キョボ文庫から発売、9月第1週から3週にわたり、宗教部門総合ベストセラー1位になった。

写真で日本語タイトルのついているものが現在、翻訳済みです。詳しいことはmbj7335@gmail.comまでお問い合わせください。

目ざめよ、 イスラエル



日間の宣教秘話

福音の発祥地だが
イエス・キリストが人類の救い主であることを
知らずに、いまだにメシアを待っている
そんな国がイスラエルだ。
イスラエルを目ざめさせるために
イ・ジェロク牧師は2007年7月23日、ソウルを出発、
イスラエル宣教の長い道を歩み始め、
ついに2009年9月6-7日、イスラエル連合聖会が
成功のうちに終わった。実に777日間の宣教が
実を結んだ瞬間だった。

前半期1-6次宣教

イ・ジェロク牧師は主イエスに習って、イスラエルの北から南まで、12次にわたって聖潔の福音を伝え、神の力あるわざを現した。以下はその記録である。

2007.7.23. ソウル出発

「私は神様の御心に従って、今後3年間、イスラエルの働きをするようになります。今回、その第一歩です。神様は、初めは『訪問』にしてくださいと言われました。これは、イスラエルでの宣教が今まで他の国で行なわれた聖会とは違う働きになるからです。以前の聖会が1回の大きい聖会で福音を伝える方法だとしたら、イスラエルの働きは漸進的な宣教であり、最後は正統派ユダヤ教徒にまで福音が伝えられるようにしなければなりません。」

2007.7.24. ガリラヤ湖周辺

「イスラエルに到着した私たち一行は、イエス様の働きの主な舞台であったガリラヤ湖の周辺に移動しました。牧師先生たちに会ってみると、私のイスラエルの働きをすでに備えておられた神様の助けを改めて感じました。すでに私の説教と神の力を伝える番組を放送している衛星放送が、138の教会と家の教会に設置されていました。イスラエルには約300の教会があるそうですが、そのうちの多くがすでに衛星放送で私の説教と神の力について視聴していたのです。実は、2006年のニューヨーク連合大聖会の時、衛星アンテナの設置を支援してほしいと依頼されましたが、それは決して楽なことではなかったのです。しかし、神様が心に働きかけてくださったので、私は思いを働かせないで、信仰によって「アーメン」と支援を約束して実行しました。それが今日、このように尊い実として結ばれたのです。」

2007.7.25. ナザレでの初集会

「イスラエルに到着した翌日、ナザレの支教会で水曜礼拝を導きました。きっかけは25年前、本教会が開拓された日でした。神様は数年前に私にイスラエル宣教について預言のことばを下され、その初めが本教会が開拓した日と関連があると言われました。その日に合わせてイスラエルの



ナザレの支教会で説教した後、病人のために祈っているイ・ジェロク牧師

働きが始まる、と言われたのです。

ところで、ナザレとはどんな所でしょうか？ イエス様が育てられたところです。イエス様が公生涯を始める前まで住んでおられた所で、それからの3年間のために神様といつも交わって、みことばを黙想された所です。今後の働きのために力を尽くして祈られた主イエスの御足の跡があちこちに残っている、まことに意味のある所です。」

2007.7.28. ハイファでの初集会

私は主イエスについてのメッセージを伝えた後、イエス・キリストの御名によっていやしの祈りをしました。その後、最初に証しをした人は、その教会の担任牧師の奥様でした。最近、胸の腫瘍を除去する手術を受けましたが、その後遺症で激しい痛みがあり、腕がよく動かなかったそうです。ところが、祈りを受けてから腕の痛みが消えて、自由に動くようになりました。その他にもいやされた証しが続きました。」

2007.10.10. ナザレでの二度目の集会

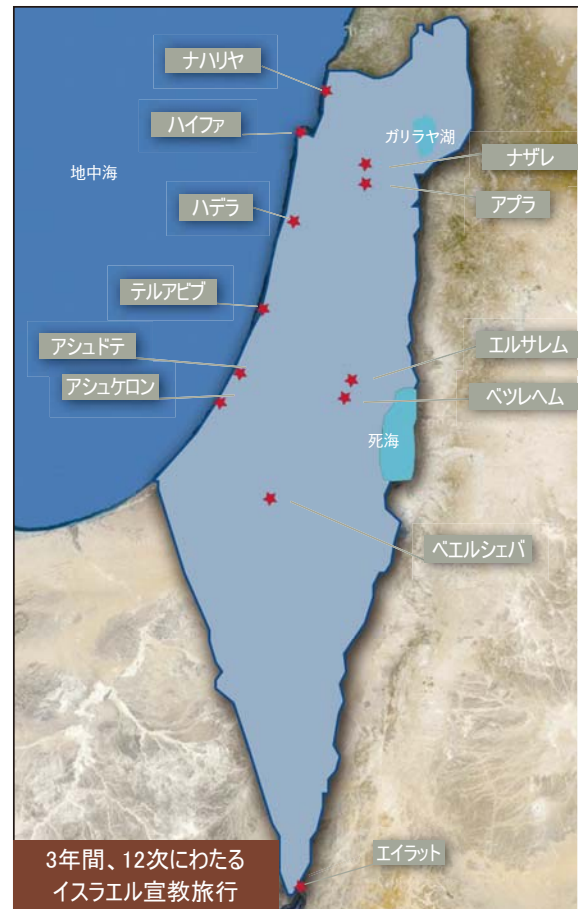
「水曜日の礼拝にもかかわらず、聖殿をぎっしり埋めるほどたくさんの方が集まりました。特にその地域に住んでいるアラブ系の牧会者と聖徒数人が、噂を聞いて参加しました。補助椅子まで出さなければならないほどでした。ここは二回目の訪問だったので、『信仰』についてメッセージを伝えました。」

2007.10.12. アシュドテでの初集会

「イスラエルでは金曜日の日没から安息日が始まります。ほとんどの教会が土曜日の午前に主日礼拝をささげますが、この日に訪問した教会は、金曜日の夕方に主日礼拝をささげていました。アシュドテ(アゾト)は使徒の働き8:40に記されているように、ピリポ執事が福音を伝えた所でもあります。人口の40%ほどが正統派ユダヤ教徒であり、キリスト教徒は信仰生活がやさしくない所です。アシュドテ教会の牧師先生は、1次訪問の時、私に会った後、弟子にしてくださいと言った方です。この教会では、杖をついているユダヤ人がとりわけ目につきました。ユダヤ人であることを表す「キツパ」を頭にかぶっていたからです。ところが、祈りを受けると、杖を捨てて歩き始めました。この方はお年を召していて、ユダヤ教徒なのに、そこに参加したという理由だけでも神様はいやしてくださったのです。」

2007.10.15. ベツレヘム牧会者の集い

「イスラエルの2次訪問の最も大きい目的である牧会者の集いがありました。私は集まった方々にイスラエルに向けられた神様の摂理について説



3年間、12次にわたる
イスラエル宣教旅行

明して、イスラエルの福音化のために協力を要請しました。この集いを持つことで、イスラエルの牧会者たちと協力して、次回のイスラエル訪問の道が見え始めたのです。」



3次イスラエル宣教のためのベツレヘム牧会者の集い

2007.12.24-25.

ベツレヘムでのクリスマス礼拝

3次イスラエル宣教は特別な意味を持つものでした。クリスマスを迎えて、この地上ではもちろん、霊の世界でも、もう一度すべての人類の救い主であるイエス・キリストが宣言される、大きい意味を持つ出来事でした。ですから、敵である悪魔・サタンがどれほど嫌がるでしょうか？ 神様と主の御名がもう一度全宇宙の中で栄光を受けられる驚くべき出来事だからです。」



イエス様がお生まれになったベツレヘムで導いたクリスマス礼拝

2008.2.24. エルサレムでの初集会

「エルサレムはイスラエルの首都です。ユダヤ教の核心地域であり、最も多くの正統派ユダヤ教徒が住んでい



る所です。このようなエルサレムの中心地で集会を開くようになったのです。この教会の牧師先生は聖霊のみわざといやしの働きに大きい関心を持った方でした。そのため、周りの牧師たちから迫害されたりしたそうです。それでも、エルサレムで働きを始めてから2年半で豊かな実を結んでいました。ところで、この教会がさらに特別だったのは、今後イスラエル宣教において担任牧師が担う働きのためでした。」

2008.4.12. アシケロンでの初集会

「ここは今でも時々、パレスチナ自治区ガザからロケット攻撃を受ける所です。集会があった1週間前も、ロケット攻撃で死傷者が出て、イスラエル側の報復攻撃もあったといひます。いつも危険と緊張の中で生きている所でした。けれど、聖徒たちは恵みに満ちていて、私の訪問を慕って待っていました。聖殿はぎっしり埋まり、席が足りなくて階段にまで座らなければならないほどでした。多くの病人がいやされて証しました。86才のある女性が補助器具を捨てて歩けるようになって、聖徒たちにとって大きい信仰になりました。」

2008.4.13. ベエル・シェバでの初集会

「日曜日にはベエル・シェバで集会がありました。途中でアブラハムの井戸も見ました。〈創世記21:33〉に「アブラハムはベエル・シェバに一本の柳の木を植え、その所で永遠の神、主の御名によって祈った。」とあります。この日は特に、もっと多くのいやしの証がありました。50代の女性が杖を捨てて歩き、87才の女性が車椅子から立ち上がりました。とうてい立てそうになかった人が、立って歩き始めたのです。16年間も腰が曲げられなかった33才の男性がいやされ、88才の男性は杖を捨てて歩き、60代の女性は視力が回復して証をしました。」

2008.6.11. エイラットでの劇場集会

「イスラエル6次宣教の初めての集会場所は、最南端の都市エイラットでした。紅海に面して休養地としても有名なエイラットでの集会は、教会でなく劇場で開かれました。私に授けられた神の力が前よりいっそう大きくなったことが確かに感じられる集会でした。通訳を英語とロシア語で二度もしなければならぬので、病名を詳しく聞くこともできなくて、正確な祈りもできませんでした。それでも、全体のためのいやしの祈りをしたら、杖を手を持って出て来る方が何人かいました。」



い



レハムで導いた

後半期7-12次宣教

イスラエルのキリスト教界がカづけられるようになると、イ・ジェロク牧師は本格的に正統派ユダヤ教徒に福音を伝えて、聖書に記された神の摂理が成し遂げられるために全力を尽くした。

2008.7.26. テルアビブでの集会

「これからは、このように教会を回りながら集会を開く時間があまりありません。今後は宣教の方向が転換されるからです。これからは正統派ユダヤ教徒に向けての福音宣教が主な目的になります。もちろん、最初に宣教を始めてから今まで、正統派ユダヤ教徒への宣教も、続けて行なわれてきました。これからはそれが本格的になります。」

2008.10.17. ナハリヤでの集会

「8次宣教からはソウルからイスラエルへの直航便ができて、乗り換えなしに行けるようになりました。初めはほとんど2か月に1度、イスラエルに入国しなければならなかったのが、空港の手続きが慎重にならざるをえませんでした。ところが、宣教チームは回を重ねるほど、むしろ楽にイスラエルを出入国しています。これは、イスラエルの情勢が以前と大いに変わっているからです。神様がイスラエルの要人たちとも緊密に結ばれるようになるのは、今後のマンミンの働きのための布石です。その方々が私たちの力になって、これからもマンミンと結ばれて、教会の盾になってくれるはずからです。私がこれ以上イスラエルに入れなくても、福音の種は芽を出して実を結び続けるのであり、また、そうでなければなりません。神様はそのような役割ができた方々に正確に働かれて、会うようになされたのです。」

2009.2.16. アシドデでの牧会者セミナー

「2007年1次宣教訪問の時は、ほとんどの牧会者が週日は仕事をして、安息日にだけ牧会をしていました。このような状況で牧会者が連合して立ち上がるのは、非常に困難なことでした。福音を伝えるために教会が連合して、何かを計画して実行するなどは思いもよらないことでした。ところが、私を信じて信頼して、私たちマンミンと共に働くことをとても慕う牧会者たちを中心に、クリスタルフォーラムが結成されたのです。この集まりに



2009.2.16.アシドデでの牧会者セミナー



オリーフ山から見たエルサレム全景

参加した方たちは、単なる同労者としてでなく、家族のように働いていきたいと願っています。」

2009.4.20. ナザレでの牧会者セミナー

「私が牧会者セミナーを終えて宿舎へ帰ろうとしていると、ある牧師先生が私に、車を止めてちょっと待っていてくださいと頼まれました。がん患者が私に会うために遠くからタクシーに乗ってやって来ているということでした。しばらく経ってその方が到着して、私はイエス・キリストの御名によって切に祈りました。するとがんが完全にいやされたのです。このようなみわざが起きるので、牧会者たちは私を信頼して、まことの信仰を持つようになりました。それで、私たちと協力して福音宣教に励んでいるのです。最近、私をさらに信頼して信仰が大きくなった、もう一



エルサレムで開かれた第3次牧会者セミナー

つ契機がありました。それは、私に祈りを受けて神の力が込められたハンカチに現れる奇跡(使徒19:11-12)を、自分でも体験していることです。」

2009.9.6-7. イスラエル連合聖会

「イスラエルを霊的に『地の果て』と呼ぶ理由は何でしょうか？ 福音が入るのが最も難しい所であり、最後に福音が入る所だからです。イスラエルのキリスト教界は今、カづいています。これまでの私たちのイスラエル宣教を通して、神の力あるわざを見て聞いて体験し、また、みことばが心に植えつけられたからです。信仰と愛で一つになって、マンミンの名によって集まっています。これらすべては、ただ神様が、私たちの主がなされたことです。今後、主が来られる時まで、そして七年患難の間、イスラエルのキリスト教界が果たすべき使命はまことに大きいのです。」

(編集者注:以上はイ・ジェロク牧師が2007年8月5日から2009年9月20日まで、主日礼拝で説教した「イスラエル宣教報告」を要約したものです。)



ナザレで開かれた第2次牧会者セミナー

「今回の3次牧会者セミナーには、多くの主のしもべがイスラエル全域から集まりました。英語、フランス語、ヘブライ語、ロシア語の四つの言語で通訳しなけれ

2009.6.22. エルサレムでの牧会者セミナー

「今回の3次牧会者セミナーには、多くの主のしもべがイスラエル全域から集まりました。英語、フランス語、ヘブライ語、ロシア語の四つの言語で通訳しなけれ



2009年イスラエル連合聖会は、33の放送局から220か国余りに8か国語で放送された(ICC)

「試みを通して信仰が成長、

27周年

万民中央教会 創立

20坪余りの狭い空間で
13人で開拓礼拝をささげ
27年間で万民中央教会は数十万人、
数百万人を
集めて福音を伝える海外聖会を開き
世界に9,000以上の支教会を持つ大教会
に成長した。
マンミンの27年の歴史は世界のキリスト教
界が驚く、神がともにおられる信仰の歴史
であった。

創立・成長期 1982.10.~ 宝の中の宝は信仰

宝の中の宝は信仰
しるしと不思議があふれて、開拓9年で
信者1万人突破…試みの背後に隠された
神の摂理

あらゆる病気で崖っぷちに立たされた青年イ・ジェロク。その絶望の中、死の直前で神に出会って、主のしもべとして召される。神の召しを受けて、イ・ジェロク伝道師は太陽の燃



開拓礼拝(1982.7.25.)

え上がる1982年7月25日、子どもを含めて聖徒13人で開拓礼拝をささげる。「あなたの始めは小さくても、その終わりは、はなはだ大きくなる。」(ヨブ8:7)のみことばのように、これが万民中央教会の始めだった。
いやしの神を体験した彼は、神学生の時、食事よりは断食して祈った。魂の救いのために空腹もこらえて、聖書に記された神の力を求めて、主を呼んで祈った。そうしているうちに中風、がん、関節炎、心臓病、リンパ腺炎など、さまざまな病気がいやされ、教会の行事の時に雨が降ると、祈りで雨がやむなど、不思議としたりが現れた。このような噂が広まって、全国から病人が集まった。聖殿は足の踏み場もないほどぎっしり人で埋まった。五穀が実って、初めて霜が降りた1982年10月10日、約100人の聖徒

が集まって創立礼拝をささげた。初代教会のように毎日集まることに努めて、火のように祈ると、リバイバルにリ



創立礼拝(1982.10.10.)

バイバルを加えて、1987年1月には信者が3000人、1991年3月には1万人に増えた。聖殿を三度も移転しなければならなかったが、爆発的に増える信者を受け入れるには、いつも狭かった。

万民中央教会は初めの頃から書籍、新聞、放送による宣教も活発に行なった。1987年4月にはイ・ジェロク牧師の証し手記『死の上がり框で味わう永生』を発刊し、5月には聖徒の証しと教会を知らせる新聞『万民中央ニュース』を創刊した。また、キリスト教放送局ではイ・ジェロク牧師の証しをドラマ化し、8月には「新しくしてください」という番組に同牧師が出演した。その後、韓国国内のリバイバル聖会および国内外のラジオ放送説教を本格的に始めた。これが広く知られて、教派を超えて万民中央教会の「リバイバルの秘訣」を学ぼうと、多くの牧会者が訪ねてきた。

初代教会のようなリバイバルを加えて、神の祝福があふれていた1989年、教会は第一次の試みに直面する。根拠のない謀略でイ・ジェロク牧師が免職され、教団から除名される危機が訪れたのである。ここに神の驚くべき知恵が隠されていた。1991年7月、新しい教団を作り、民族福音化と世界宣教のために思う存分働けるようになったのである。



創立10年で登録信者1万7000人の大教会に成長した。創立10周年記念野外行事(1992.10.11)

第1跳躍期 1991.10.~ 起きよ。光を放て。

教団設立後
‘92世界聖霊化大聖会をはじめ、
活発な国内外宣教活動

イエス・キリスト大韓連合聖潔教団の総会長に就任したイ牧師は、さらに活発に超教派の活動を行なう。

1991年10月、『万民中央ニュース』が隔週発行に増刊され、キリスト教世界リバイバル宣教協議会常任会長、光復50周年記念平和統一ヨベルの年大聖会実務大会長などを引き受け、キリスト教界で民族福音化の一翼を担う。このような牧会が高く評価されて、1993年にはアメリカの『クリスチャンワールド』誌で世界50大教会に選ばれた。以後、イ牧師はアメリカで名誉神学博士、牧会学博士の学位を受けた。

1993年7月、ワシントンをはじめ世界各地で海外聖会が開かれるようになった。「創造主の神」と「イエス・キリスト」、「十字架のことば」と「万民中央教会リバイバルの秘訣」等、メッセージを伝える所ではどこでも、神の力あるわざも現れて、生ける神の御名を高めた。

1994年末には登録信者3万人を突破、リバイバルを重ねて1996年6月、ソウル市クロ区クロドンに新しい聖殿を建築した。毎年、2週連続特別リバイバル聖会と主のしもべ教育を実施、教会の数の成長だけでなく、聖徒の霊の信仰を成長させることにも努めた。

「‘96ハワイ韓国人教会連合聖会および教職者セミナー」「‘96アルゼンチン韓国人祝福大聖会および現地人牧会者セミナー」「‘96日本・信州地域連合大聖会」「‘97ワシントン大伝道大会および韓米連合大聖会」「‘97第2回アルゼンチン牧会者セミナーおよびリバイバル聖会」などの海外聖会を開き、主の栄光が全世界に現れるようになった。

1998年から始まった教会への試みは某放送局のわい曲報道で最高潮に達したが、この訓練を通して聖徒たちはさらに祈るようになり、ただ善を追い求めて勝利していった。そして、これ以降、想像もつかない神の祝福が注がれたことで、すべてが祝福の訓練であったことが証明された。

2000年1月1日、教会付属の「マンミンテレビ」が設立され、放送宣教の準備ができた。3月にはイ・ジェロク牧師の祈りで全羅南道ムアンの海の塩水

神の力で福音を伝える」



’92世界聖霊化大聖会(1992.8.16.)で、聖書朗読をするイ・ジェロク牧師、申賢均牧師が説教、チョー・ヨンギ牧師が代表祈禱を担当した。教会付属のシンオーケストラ、聖歌隊、400人余りがボランティアで参加した。

が甘い水に変わるしるしが現れた。このムアンの甘い水はFDA(アメリカ食品医薬品局)の検査の結果、優れた機能性飲料と認められ、これを飲んだりつけたりして、いやしのみわざが現れている。この他に、電話のいやしの祈りや神の力の込められたハンカチ(使徒19:11-12)、画像礼拝しても、写真の上に祈ってもいやされるなど、時間と空間を超えて創造主の神の力が爆発的に現れた。同年7月、CNNでも報道された「2000年ウガンダ連合大聖会」を皮切りに、世界宣教時代が到来する。

第2跳躍期

2000.10.~

やむことのない聖霊の働き

パキスタン、インド ロシア、アメリカなど12回の海外大集会を導き、世界的なリバイバル講師として、福音の発祥地イスラエルに聖潔の福音を伝える

2000年10月、イスラム国家のパキスタンに聖潔の福音が伝えられ、地の果てイ



延べ人数300万人以上が参加したインド連合大聖会(2002.10.10-13.マリナービーチ)

スラエルにまで福音を伝えるための中東宣教の扉が開かれた。以後、イスラエルまで福音が回帰するように神が直接導かれた。エイズなど数多くの病気がいやされた「2001年ケニア連合大聖会」、国



世界200か国以上に放送されたニューヨーク連合大聖会(2006.7.27-29.マディソンスクエアガーデン)

民の90%以上がカトリックのフィリピンにイエス・キリストを宣べ伝えた「2001年フィリピン連合大聖会」、中南米に聖霊の嵐を巻き起こした「2002年ホンジュラス連合大聖会」、世界最大のヒンズー教国家で

延べ人数300万人以上が参加した「2002年インド連合大聖会」を通して、数え切れない魂が改宗した。

「2003年ロシア連合大聖会」は衛星放送で世界150か国以上に放送され、

「2004年ドイツ連合大聖会」では聖潔の福音がヨーロッパ全域に伝えられた。「2004年ペルー連合大聖会」は現職の大統領をはじめ政界、マスコミ界、キリスト教界の支援で開催された。

「2006年コンゴ連合大聖会」は政府の積極的な支援の下に延べ人数70万人以上が参加、聖書に記された奇跡が無数に現れて、神に大いに栄光を帰した。

アメリカのニューヨークの名所マディソンスクエアガーデンで開かれた「2006年ニューヨーク連合大聖会」では、祈りによって見えなかった目が見え、聞こえなかった耳が聞こえ、歩けなかった人が歩くようになるなど、驚くべき奇跡がデイスター、TBNロシア、コスモビジョン、GCNなどのテレビで

世界200か国以上に放送された。

2007年7月からはイスラエル宣教が始まった。

3年間、イスラエル北部のガリラヤから最南端のエイラットまで、聖潔の福音を伝えて、神の力あるわざを現した。

ついに2009年9月、イ牧師は福音の発祥地イスラエルで、エルサレムICC(国際コンベンションセンター)にて「イエス・キリストがなぜ私たちの救い主であるのか」についてメッセージを伝えた。続いて全体のためにイエス・キリストの御名によって祈ると、数え切れない人がいやされて、神に栄光を帰した。この聖会はAFP、ロイターなど有名通信社が取材報道し、エンラセ(中南米)、TBNロシア、デイスター(アメリカ)など33の放送局から約220か国に放送された。これは、全聖徒が祈りで一つになり、結んだ実であった。

第3跳躍期

2009.10.~

父なる神の御心が成し遂げられるまで

世界宣教のへ新しい跳躍
カナン聖殿、そして大聖殿

去る27年間、目で見なければ決して信じない現代社会において、神の力を見せて神が生きておられることを確かなものとされた万民中央教会のかしらは、イエス・キリストであった。聖潔の福音を地の果てまで伝えた万民中央教会の次の働きは、何であろうか?

父なる神の御心が成し遂げられるまで、ただ主の心で民族福音化と世界宣教のために、さらに力強く前進するだろう。また、エジプトを脱出したイスラエルの民が40年、荒野で暮らしてから約束の地カナンに入る祝福を受けたように、訓練を通して堅い信仰に成長した聖徒たちは、カナン聖殿を目前にしている。カナン聖殿は、その名のようにマンミンの聖徒に休息と平安を与える所で、乳と蜜の流れる祝福の土地になるだろう。

今後は、神を愛する全世界の聖徒が知恵と力を合わせて大聖殿を完成して、神の限りない栄光をすべての国々に知らせるだろう。水が海をおおうように、主の栄光が世に満たされるまで、マンミンの働きは決してやむことはないだろう。



私たちの教会で27年間、主に会っています 愛の負債のある私、低く仕える者になって

パ・チョルリヨ長老(万民中央教会1大大7教区)

結婚してから主を受け入れるまで、私たち夫婦は、私の放蕩と頻繁な事業の失敗のために、波風のおさまる日がありませんでした。

1982年8月、妻に伝道されて主日礼拝に出席してから1年くらい経った時のことです。夜遅くに金曜徹夜礼拝に行きたいという妻の切なる願いに勝てなくて、教会に送ったら心配になりました。すぐに私も、初めて徹夜礼拝に行ってみました。入ってみると、20坪余りの聖殿は人でいっぱい、階段にまで多くの人が座っていました。その日、神様は思いがけず教会に行った私に会ってくださ

いました。涙と鼻水を流しながら魂を砕いて罪を告白して祈り、水と御霊によって新しく生まれました。

その後、あれほど好きだった酒とタバコをやめて、祈りながらみことばどおり生きようと努めました。家庭も平和になり、物質の祝福も毎年増えました。

1987年になると、宣教会のセルリーダーの使命が与えられました。使命を果たすのに何より大切なのは、主が弟子たちの足を洗われたように、会員に仕えることだと思いました。このような心で熱く仕えると、リバイバル優秀賞も頂くようになりました。

この心は今も変わりません。「どうすれば主が行なわれたように聖徒に仕えられるだろうか!」と聖徒を顧みることに努めています。これは、開拓の時も今も、いつも小さい者も軽く見ない牧者の仕えと愛を見てきたからです。このように手本になってくださる牧者を見て主を思い、父なる神様をもっと愛する心を持つようになるので、私はまことに幸せな信仰生活をしています。

心を尽くした仕えの人生がどれほど幸せなのかよくわかる私は、主に愛の負債を負っている者として、さらに低く仕えたいと願っています。



マンミンとともに歩めて幸せです

神の力を体験している幸いな日々

ジョゼ・トマス牧師(インド・タミル・ナードゥ州OMブックス社長)

私は2002年のインド連合大会でイジェロク牧師とマンミンの働きを知ることになりました。あのように大勢の人が一か所に集まったのを今までに見たことがありません。その時から私はイジェロク牧師のメッセージを聞くようになり、大いに恵みを受けています。そのメッセージは純粋な福音そのものです。特に「十字架のこぼし」は力あるメッセージで、自分の教会でも説教しています。



2004年、妻が二人目をみごもっていたとき、赤ちゃんが逆子で危険な状態にありました。私は妻の写真を送って、イジェロク牧師に祈りを依頼しました。牧師がイエス・キリストの御名によって祈ると、時間と空間を超えて神が働かれ、無事に出産できました。これは、神に愛されているイジェロク牧師が祈ったからこそ可能なことでした。この経験から自分の信仰がさらに成長したことが感じられました。娘は

ジェイシンス(Jacinth)と名づけました。新しいエルサレムの十二の土台石の一つ、青玉という意味です。今5才で、健康に賢く育っています。私は日々神の力を体験しています。ある日、鋭い物で白

目を傷つけて、目全体が真っ赤になってしまいました。インドの宣教師、ハン・ジョンヒ牧師のところに行くと、牧師は「信仰をもって祈りを受けてください」と言って、イエス・キリストの御名によってイジェロク牧師が祈り、神の力が込められたハンカチ(使徒19:11-12)を当てて祈ってくれました。ムアンの甘い水も目につけてくれました。すると、驚いたことに、私の目は一日で元に戻りました。

また、ハン牧師と一緒にいるとき、太陽の周りにかかる丸い虹を見たことがあります。これは神があなたがたとともにいるという約束のしるしです。聖書にも御座の周りを虹が囲んでいる記述があります(黙示録4:3)。

OMブックスからイジェロク牧師の著書を出版すると、物質の祝福も受けました。年間売上は毎年伸びています。『天国』は発刊とともにすぐ売り切れました。

ですから、私自身はまだ本を読むチャンスさえありません。読者はこの本の予約をして、すでに代金も払っていました。この本はさらに読まれるでしょうし、牧会者にとっても一読に値します。私は聖潔の福音を聞いて家庭が幸せになったし、周りの人からも、とても祝福されていると言われます。

昨年9年、エルサレムで開かれた2009年イスラエル連合聖会に、チェンナイ万民教会のスクリーン聖会に参加しました。実に驚くべき聖会でした。もう一度神の力とマンミンの働きに驚きました。

万民中央教会の創立27周年をきっかけに、長い間楽しみにしていた訪問ができて幸いでした。公演チームが10か国語でささげた賛美、野外のレーザーショーはすばらしかったです! まるで天国にいるように感じました。マンミンとともに歩めて幸せです。

ジョゼ・トマス牧師と主にあつて幸せな家族(下がジェイシンス)

日本支教会の連絡先

主日大礼拝、主日夕方礼拝、金曜徹夜礼拝はソウルの万民中央教会の礼拝をNSS-6衛星で同時にささげています。

- ・イエス・キリスト飯田万民教会
〒395-0807 長野県飯田市鼎切石 3883-4
T) 0265-56-8286
<http://iidamanmin.to.cx/>
- ・名古屋万民教会
〒465-0014 名古屋市名東区上菅 1-916
T) 052-774-8874
- ・イエス・キリスト山形万民教会
〒999-3716 山形県東根市蟹沢 1486-4
T) 0237-43-0771
- ・イエス・キリスト別府万民教会
〒874-0924 大分県別府市餅ヶ浜町 4-41
T) 0977-23-8980

- ・イエス・キリスト大阪万民教会
〒591-8023 大阪府堺市北区中百舌鳥町
5-775-15
T) 072-220-5289
<http://www.eonet.ne.jp/~osakamanmin/>
- ・イエス・キリスト旭川万民教会
〒071-8144 北海道旭川市春光台4条3丁目 11-23
T) 0166-53-0652
- ・イエス・キリスト東京田端万民教会
〒114-1102 東京都北区田端新町 2-25-3
T) 03-3809-3326
<http://tabata.manmin.or.kr/>

- ・イエス・キリスト川崎万民教会
〒210-0818 神奈川県川崎市川崎区中瀬2丁目12-8
グリーンヴァレ 301号室
T) 044-277-0178
- ・イエス・キリスト松本万民教会
〒399-0033 長野県松本市笹賀 4343
T) 0263-57-0003
- ・イエス・キリスト舞鶴万民教会
〒624-0913 京都府舞鶴市宇上安久 138
T) 0773-75-5656
<http://www.manmin.jp/>
- ・岡山万民教会
〒701-2155 岡山市北区中原460
T) 086-275-7276

- ・イエス・キリスト八千代万民教会
〒276-0045 千葉県八千代市大和田 670
T) 047-483-3587
- ・イエス・キリスト銚田万民教会
〒311-2102 茨城県銚田市台濁沢1080-6
T) 0291-39-9177
- ・イエス・キリスト東京万民教会
(東京万民宣教センター)
〒167-0051 東京都杉並区荻窪 2-29-13
T) 03-6915-1740
- ・横浜鶴見福音教会(協力)
〒230-0047 神奈川県横浜市鶴見区下野谷町 3-104-4
T) 045-521-5843